

## 「平成28年度 ナガエツルノゲイトウ駆除作業（第1回）」参加報告

平成28年5月29日(日)、夏を思わせるような厳しい日差しの中、特定外来種植物「ナガエツルノゲイトウ」の駆除作業（第1回）が実施されました。

場所は、昨年度に引き続き、印旛沼に通じる新川に流れ込む八千代市内の桑納川(かんのうがわ)で行い、昨年駆除しなかった群落はさらに繁殖していました。

駆除作業は、昨年度と同様に「印旛沼流域水循環健全化会議」の組織が主体となって実施され、参加者は、昨年に引き続き、東邦大学、千葉大学、環境パートナーシップちば・関東農政局・千葉県・千葉市・八千代市・印旛沼土地改良区、さらにNPO法人国際ボランティア学生協会(IVUSA)、NPO法人美しい田園21などが参加し、昨年度に増して参加者が幅広く、規模も拡大し、総勢176名となりました。千葉用水総合管理所からも7名の職員が参加しました。



ナガエツルノゲイトウ繁殖状況



駆除後、茎を網ですくい上げ

今年度の取組方針として、目的は「大和田排水機場の治水リスクの軽減」、目標は「効果的な管理方法の確立」・「地域協働による持続可能な管理体制の構築」を目指すものです。



浮遊させ、運搬

河川内の駆除作業は、昨年の経験を活かし植物の特長を利用し、護岸近くに張っている根を切り離して浮遊させ、

また、エネルギー溢れる学生たちは人海戦術で根こそぎ駆除されていました。

ナガエツルノゲイトウは、茎を残すと茎の節から発根して再生するので残さないよう網ですくうなど、丁寧に作業を行いました。

今後とも群落が再発生することを抑制するため、継続しての駆除作業が予定されています。



水域班と陸域班の協同作業

作業は、水域班・陸域班・水上班と分かれ、午前から午後にかけて行いました。

### 「ナガエツルノゲイトウ」・・・

特定外来種植物「ナガエツルノゲイトウ」は、南米原産で、水辺に繁殖する植物ですが、繁殖力が強く、生態系を脅かすばかりでなく、洪水時に流出した群落が大和田排水機場に流れつき、印旛沼の排水運転が困難となる事態が発生することになります。



おつかれさまでした